

平成26年度 事業実績報告書

社会福祉法人正榮会

さかえ保育園

平成26年度は第三者評価受信年度にあたり期首より保護者に対し利用者アンケートの提出協力を促して行った。結果当該年度においても80パーセントを超える回収率であった。しかしながら内容としては辛酸な意見というよりも誹謗中傷ととれる職員個人に対するものがありアンケート調査の恐ろしさを甘受するものとなった。この内容については東京都福祉局ホームページにて結果公表がなされるが、現実の自由記述内容は公表されることはなく、通り一遍の調査企業の文面で終始することになる。

事業展開としては新事業として訪問保育を開始した。葛飾区の委託によるものだが実質的には何件かの問い合わせと登録されたご家庭があったが、実際は諸々の保育サービスの一つとして利用者が自身の利用するサービスの一つとして捉えられている傾向が感じられた。実績としては0件だった。

職員の動向として安定しているように年度初めから感じられていたが、突発的な退職者の発生や利己的な行動をとる職員が散見され今後の就労について幾度となく研修、面談を繰り返し行い戒飭（かいちやく）したが、恭順することはなく退職に至る事例があった。その後、当該者以外の職員に至っては安定した就労が見られた。期首時点での保育者数13名、栄養士4名、看護師1名、非常勤3名、調理員等職員2名。期末時点で保育者数12名、栄養士3名、看護師2名、非常勤3名、調理員等職員2名。

転園者事例においては都外転出、兄弟児通所園への転園、父母離婚による転出などがあげられる。DV、虐待による事例は一件あり、保護者本人から申告で発覚し葛飾区子育て支援課、子ども家庭支援課と連携をとり母子の保護に努めた。その後、離婚が成立し父方とは距離をおき児童は継続的に通所している。

児童受託状況において近隣新設園である水元保育園開所の影響が懸念されたが、利用者のニーズの質が違うことから想定外に影響を受けずにいる。また、次年度には西水元地区において管内法人の新規園が設立されるが生活動線の違いから直接的な影響は受けづらいつと考えられる。

各クラス、担当等部署の報告は以下の通りである。

0歳児

担任：藤森・岡田・大作

養 護	家庭と連携をとって個々の状態に合わせて一対一の関わりを大切にしながら、健康的な生活リズムを身につけられるようにしていった。保育者との信頼関係を深め情緒の安定を図ることで外界への興味を引き出せるよう関わっていった。
教 育	【健康】 ・安全で快適な環境を整え、活動意欲を高めていくことで十分に運動遊びが経験できるよう発達段階に合わせて遊びを設定しながら、身体運動を促していった。押す、

	<p>つまむ、ちぎるなどの指先遊びを玩具や様々な素材を用いて経験できるようにしていった。</p> <p>【人間関係】 個々の要求を受けとめ応えていくことで保育者との信頼関係を深めていき、安心して過ごせるようにした。安心できる保育者との関わりから、他児への興味を引き出していき友達と同じ物で遊ぶなど関わる機会をつくり仲立ちをすることで友達と関わる楽しさを伝えていった。</p> <p>【環境】 外界への興味が広がるよう言葉掛けなどを行い、自然物などを見る、触れる機会を増やしていった。又、製作などを通して様々な素材に触れることで個々に合わせて十分に感触を味わえるようにしていった。</p> <p>【言葉】 個々の喃語、指さし、発語をしっかりと受けとめ応答していく、丁寧にわかりやすい言葉で語りかけることで発語を促していった。</p> <p>【表現】 歌や体操、音の出る玩具等を通して様々な音に触れる機会をつくっていき楽しさを感じられるようにした。保育者が一緒に身体を動かすことで、リズムに合わせて身体を動かす喜びを伝えていった。絵本や紙芝居、ペープサートなどで言葉のやり取りや模倣する楽しさを感じられるようにした。</p>
食育	<p>家庭と栄養士と連携して授乳、離乳食を進めていき様々な食べ物を食べられるよう援助した。楽しい雰囲気の中で、コップ、スプーン、フォークの使い方などを伝え自分で食べようとする意欲を育てていった。</p>

1 歳児

担任：牧野・吉田

養護	<p>・自己主張など個々の気持ちを受け止め、安心して思いを表現して過ごせるようにしていった。また「自分で」というやりたい気持ちの芽生えを大切に、褒める、認める、援助をすることにより自分で行う喜びを十分に感じられるようにした。</p>
教育	<p>【健康】 ・排泄は個々の排尿間隔を見ながらトイレに誘い、無理なくトイレでの排尿を身に付けていけるようにした。トイレで排尿した時や尿意を伝えた時はその都</p>

度言葉掛けにより自信や意欲に繋げて行った。また個々に合わせて布パンツへの移行を行っていった。

・午睡は保育者が触れる、傍について寄り添うことで入眠するようになる。体力が付いてくると入眠まで時間を要する子どもも見られたが、落ち着いて入眠出来る様に関わっていった。

・着脱は「自分で」という姿が多くみられ、衣服の前後にも興味を示して着脱を行うようになった。「できない」という時にはやり方を伝えながら援助をする、褒めるなどの言葉掛けをすることにより自分でやろうとする意欲を引き出していった。

・運動面では走る、投げる、跳ぶ、昇るなど十分に身体を動かして遊べるようにし、室内でも安全な環境の中、肋木やトンネルなどを使って身体を動かす機会を設け発達を促すようにした。また紐通しやシール貼りなど指先を使った遊びも取り入れ、個々の発達を促していった。

【人間関係】

・安心できる保育者との関わりの中で、少しずつ友達に興味を示し、関わりが広がっていった。玩具の取り合いなどから思いを上手く伝えられずに叩く、押す、噛みつくなどの行動が見られたが、保育者が仲立ちをして「貸して」「ありがとう」「一緒に遊ぼう」などのやりとりを伝えていくことで、順番に玩具を使う、一緒に遊ぶ姿も少しずつ見られるようになってきた。また年下の友達にも興味を示し、頭を撫でて優しく接するなどの異年齢児との関わりを少しずつ意識するようになった。

【環境】

・天気の良い日は水元中央公園や水元公園へ行き、季節ごとの自然物に十分触れられるよう戸外遊びの機会を多く設けた。身近な動植物に興味をもてるよう言葉を掛けていき、身のまわりのものを伝えていくことで興味を広げていくとともに発見する楽しさを感じられるようにしていった。落ち葉や木の実などの自然物に触れる、集める、見立てて遊ぶことや雪などの季節の遊びが楽しめるよう関わっていった。

【言葉】

・仕草で伝えようとしている思いを代弁していくことで、単語で思いを伝えるようになり、二語文、多語文へと繋げて言葉の発達を促していった。丁寧に応答していくことで言葉で伝える楽しさを感じられるようにし、保育者や友達との言葉のやりとりを楽しめるようにしていった。

【表現】

・季節の歌や手遊び、体操を通して、音楽に合わせて身体を動かす、保育者の模倣をするなどの表現遊びを楽しめるようにしていった。製作ではのりなど身の回

	りにある様々な素材に触れる機会を設けた。自由画や小麦粉粘土の活動で丸や線、作った形を車、食べ物、動物に見立てる姿が見られるようになった。
食育	・食育活動では様々な野菜に触れることで名前や色に興味を示し、様々な食材を意欲的に食べるようになってきた。簡単なマナーや正しいスプーン・フォークの持ち方を知らせ、正しい姿勢などが習慣づくよう伝えていった。

2歳児

担任：大泉・西村

養護	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の流れを覚え少しずつ意欲的に身の回りのことを行おうとするようになる。 ・「自分で」という思いを受け止め、十分に褒めながら自信に繋げていくことで安心し健康的に過ごした。
教育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄ではタイミングを見ながら誘いトイレで排泄することが増えていくことで自信に繋がり、少しずつ尿意便意を伝えるようになる。後始末が十分でない子には介助をしながら後始末の仕方を知らせるようにした。 ・午睡時では一人で入眠できるように見守るが、一日の活動や体調により入眠までの時間に個人差があった。 ・着脱は衣服の前後を確認しながら行うようになる。また、脱いだ服は裏返しを直したたんで片づけるようになる。スナップボタンやファスナーは介助を必要とする子もいたが進んで行おうとしていた。個々に言葉掛けが必要なこともあるが、下着をズボンにしまうことを意識するようになる。 ・運動面では、散歩時に少しずつ歩く距離を伸ばしていくことで遠くの公園まで無理なく歩く体力がついた。固定遊具や室内の運動遊びのなかで、走る・跳ぶ・昇る・くぐるなどの基本的全身運動を身につけた。指先遊びではヒモ通し等で楽しみながら指先の細かい動かし方を少しずつ身につけていった。 <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びや集団遊びを通して友達との関わりが増え、遊びが広がっていた。「一緒に遊ぼう」「貸して」「ありがとう」と子ども達同士でやりとりするようになり、玩具の貸し借りや順番を守ることが少しずつ行えるようになった。

	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩では「お花きれい」「虫さんいるかな」と自然物に興味をもつようになり探索遊びをするようになる。また、さまざまな季節の自然物を保育者と見つけることで親しみをもちながら触れていた。 ・色・数・形にも少しずつ興味をもつようになる。生活や遊びに取り入れると、自分の好きな色を伝えることや数を数える姿が見られるようになった。 <p>【言葉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人差があるが絵本や紙芝居を集中して見るようになる。 ・単語や二語文が多かった子も文章で話すようになり、人物や場所も伝えながら経験したことを話すようにもなった。また、自分の気持ちを少しずつ言葉で友達に伝えられるようになる。 <p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌や手遊びを楽しむ時間を活動のなかに多く取り入れることで表現することを楽しむようになる。 ・製作ではさまざまな素材に触れることで興味をもち意欲的に行っていた。自由画では丸や線で人物や動物を表現するようになる。 ・ハサミの使い方を知り、見守られながら一発切りをするようになる。ハサミの動かし方が安定しない子もいる為、引き続き活動のなかで身につけていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動や食材紹介を通し、さまざまな食材に触れることで名前・色・形・匂い・大きさ・感触に興味をもち食事することをより楽しむようになる。また、苦手な食べ物も自分達で調理したという思いから少しずつ食べようとする姿が見られるようになった。

3 歳児

担任：小林

養護	<p>保育者との信頼関係を築き、個々の欲求を受け止めていく中で安定した生活を送る。少しずつ自分の気持ちや考えを伝え、相手の気持ちも知るようになる。</p>
教育	<p>【健康】</p> <p>保育者に見守られながら着脱、排泄、食事など身の回りの事を自分で行うようになった。戸外活動後は手洗いやうがいを丁寧に行おうとする習慣が付き、また、衣服</p>

	<p>が汚れた際には自ら着替えようとする。食事は食器の持ち方、並べ方、姿勢、三角食べなど様々なマナーについて知り、マナーを意識して食事をするようになってきた。戸外活動は友達と一緒に身体を動かして遊び自然探索の中で自然に触れる機会を多く設定してきた。集団で遊ぶことや自然に対する興味や関心を深められるようにした。</p> <p>【人間関係】</p> <p>個々の遊びから少しずつ集団での関わりが増える。平衡遊びから共通の玩具を通して友達と一緒に遊びを楽しむようになる。その中で玩具の取り合いや遊び方などで気持ちをぶつけあうが、ぶつかり合いをする中で相手の気持ちを知ろうとするようになった。集団遊びは約束事やルールがあることを伝え、守ることの大切さを感じられるようにした。</p> <p>【環境】</p> <p>探索活動を通して子ども達を感じたこと、発見したこと、感動したことに共感して自然に対する興味や関心を深めるとともに、疑問に思った事を一緒に調べることで、少しずつ理解していくことへの楽しさを感じられるように配慮した。また、遊びを通して色・数・形・量・大小に対する認識を高めるようにした。</p> <p>【言語】</p> <p>生活や遊びの中で保育者や友達との会話を通して語彙力が高まり、言葉でのコミュニケーションがとれるようになり少しずつ会話を楽しむ。会話の中で相手の気持ちを少しずつ考えるところも見られるようになった。絵本や紙芝居の話喜んで見ることや聞くことによって内容を理解しながら、言葉の言い回しなどを楽しむ。</p> <p>【表現】</p> <p>製作は用具や材料の使い方を知らせながら、題材を変えて様々な物に慣れるように進めた。また製作した作品を園内に飾る事で作る、描く楽しさや喜びを感じるようにした。楽器遊びは楽器の持ち方や扱い方を知らせながら、音色の違いを楽しむリズムに対する興味をもつようにした。表現遊びを通して様々な役になり自由に表現する事や歌に合わせて動く事の楽しさを感じるようにした。</p>
食育	<p>保育者や友達と一緒に楽しい雰囲気の中で食事が行えるように心掛けた。調理保育を通して食材の名前を知り、実際に触れて感触を確かめることで興味をもち苦手な食材でも少しずつ食べるようになった。給食のメニューの中で自分達が調理した食材が入っていると、食べることへの意欲、調理することへの関心に繋がった。三色群は少しずつ理解する様子が見られる。</p>

4 歳児

担任：山本

養 護	<p>室内の温度・湿度・換気等に注意するとともに、生活・活動しやすい環境設定を行い、保育上の安全にも留意した。</p> <p>個々の気持ちや考えを受け止め、心身の成長を援助しながら自主的な行動を見守ることで、さまざまな活動に意欲的に取り組む姿が増え。</p>
教 育	<p>【健康】</p> <p>身の回りのことを自分で行う意識を高め、基本的な生活習慣が身に付いていく。手洗いうがいなどの清潔面も意識して行っていた。</p> <p>集団遊びやルールのある遊びを取り入れることで、友達と誘い合い身体を積極的に動かして遊んでいた。またさまざまな運動用具に興味を持って取り組み、励まされることで諦めずに挑戦する姿が見られた。</p> <p>【人間関係】</p> <p>保育者や友達との関係を深めていく中で、一人一人が決まりの大切さに気付き守ろうとする姿が見られるようになった。その一方で友達と喜びや楽しさを共有するようになったことから思いや意見の食い違いなどによるトラブルも多く見られた。自己主張が強く、相手の話を聞くことや気持ちを受け入れるまでに時間を要することが多く見られたが、少しずつ相手の気持ちを受け入れようとする姿も増えてきた。トラブルを自分たちで解決することについては見守りつつ仲立ちを必要とする。</p> <p>異年齢児と自ら関わり親しみをもち接し、年長児の姿に憧れや関心を持って真似をする姿が見られた。</p> <p>【環境】</p> <p>戸外活動の際には季節の移り変わりに気付けるようよう話をしたり、身近な自然を見たり触れたりすることで、興味や関心、疑問をもち、知識を深めた。畑活動、チューリップ栽培、ポニー教室等の身近な動植物の世話やふれあいを通して生命の尊さや大切さを伝えていった。また時計の数字を意識が高まるように言葉掛けを行い、絵本やカルタ遊びなどを通して、生活や遊びの中で数や文字に対する興味・認識が深めるようにした。</p> <p>【言葉】</p> <p>経験したことなどを保育者や友達に話し、友達の話を聞くなど会話を楽しむようになる。相手に伝わるように言葉を考えて話をしたり、疑問に感じたことを積極的に尋ねる姿も見られるようになった。好きな絵本や紙芝居を好んで集中して見たりとイメージを共有し合い楽しむ姿が見られた。保育者の話を最後まで集中して聞くことや日常の言葉遣い、話の内容理解については個々に応じた言葉がけ・対応を行う必要がある。</p>

	<p>【表現】</p> <p>製作活動は個々のイメージを大切に、達成感を感じられるように個々に合わせた援助を行い最後まで丁寧に仕上げることの大切さを伝えた。発表会では認識の高い物語を読み込み題材にしたことでイメージを共有しながら役になりきって演じる楽しさを感じていた。合奏はさまざまな音の違いや名称を知り、興味をもち音楽活動に対する意欲が高まるとともに心をひとつにして演奏することの楽しさを感じていた。また歌詞の内容を共に確認することで楽しんでうたう姿も増える。</p>
食育	<p>三色群活動、調理保育、行事食に期待感を持ち楽しみながら参加することで、食に対する興味や関心が深まっていった。食事では一定時間内に終えようと意識したり苦手なものでも自分から食べようとする姿が増える中で食事のマナー、箸の使い方は個々の状態に応じて言葉かけを行っていく必要がある。</p>

5 歳児

担任：小林善樹

養護	<p>一人一人の考えや気持ちを受け止め、応えていき安心感をもって個々の力を発揮して活動に取り組めるよう努めた。室内外の環境設定にも留意し安全で快適な生活が送れるようにすることで、心身ともに健康的に過ごせるようにした。</p>
教育	<p>【健康】</p> <p>基本的な生活習慣が身に付き、生活リズムが整い自分たちで見通しをもって生活を送れるようになる。健康面や生活面で必要な習慣も進んで行えるようになるが、まだ不十分な子どももいた。</p>

運動面では年間を通して水元公園などに行き、集団遊びを行うことや運動用具を使用した全身運動により運動機能を高めていけるよう努めた。目標を決め個々はその目標に向かって取り組む大切さを感じ、友達同士で励まし合いながら取り組む姿が見られた。

【人間関係】

進級当初は自分の思いを主張することで相手の思いや立場に気付くことができず友達同士でのぶつかり合いも見られたが日々の生活やキャンプ合宿、運動会、発表会などさまざまな行事を共に経験する中で友達関係が深まり、相手のことを思いやりながら生活するようになった。

異年齢児や高齢者に対しても優しさや思いやりをもって接する姿が多く見られるようになった。

【環境】

戸外活動を通して季節の草花や自然事象を通して季節の移り変わりを感じるとともに自然事象に対する関心を深め、その美しさや不思議さを友達や保育者と共感し自ら図鑑で調べることや保育者に尋ね探究心をもつようになった。行事についての由来なども紙芝居や絵本を通して興味、関心をもち行事に参加する機会を経て理解を深めた。

【言語】

絵本や紙芝居に多く触れ、見ることや聞くこと、自ら読むことで物語をイメージし想像力につなげることができるようになった。

自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝え、共通の話題で会話を膨らませることで友達との会話を楽しむ反面、話を聞く姿勢が十分に身に付いていない子どもも多く、話を聞くことの大切さを日々伝えていく必要があった。

文字や数字に対する関心を深め、十分に理解し読み書きを楽しみながら学ぶ子どももいる反面、個人差が見られ興味、関心が低く認識することに時間を要する子どももいた。

【表現】

個々の個性を尊重しながら自由に表現することの楽しさを味わえるようにし、発表会では自分たちで表現方法を考え演じることや、台詞や動作など互いに意見を出し合い自信をもって表現する楽しさを感じていた。

絵画や製作活動では自分のイメージをもち取り組むが、どうイメージを表現すればいいのかかわからずにいる子どもも見られたため経験したことなどを具体的に思い

	<p>出せるようイメージを引き出していくことで少しずつ自分なりに表現できるようになった。</p> <p>音楽活動では歌詞の内容を理解できるよう話をしていくことで歌詞に込められた意味を考えながらうたい、楽器では音色に親しみ、リズムやテンポを意識しながら友達と一緒に演奏する楽しさを感じていた。</p>
食育	<p>毎月の調理保育ではさまざまな食材に触れ、包丁の使い方や食材の切り方、特徴を学ぶ。また、おやつ作りを通して調理をすることの楽しさを感じ行っていた。</p> <p>季節の食材紹介では旬の食材に触れることや話を聞くことで食材に対する関心を深める。三色群、バランスガイドでは食材の栄養や身体とのつながりを学ぶことで食に対する興味、関心を深めた。</p>

保健事業報告

看護師：小淵

【児童の健康診断について】

乳児健診・全園児健診共に、第3木曜日で行われた。

【健康状態の観察】

保健部会、朝礼、終礼を通して、朝の視診、受入について職員間で統一出来た。

また、児の状態の変化の都度、担任から情報を得た。

【投薬について】

一週間ごとに与薬依頼書を受けて軟膏塗布を行った。今年度は長期間に渡って依頼する慢性疾患の子どもが数人いた。

【症状の対応・事故防止のための取組み】

年間の保健部会時に、登園許可書・登園届について、外傷・打撲、痙攣時の対応、誤飲時・口腔内の怪我・骨折・火傷の対応、感染症、予防接種、心肺蘇生術について、知識の確認を行った。

【虐待などへの対応】

平成 26 年度、身体的虐待の報告確認はなかった。

その他、性的・心理的・ネグレクトなどの問題も、保育士との情報交換を密に観察していた。

【疾病への対応】

保護者会や保健だより等で、緊急の際の連絡先の確認について発信していたために、スムーズに連絡が行えた。

【怪我の対応】

平成 21 年度より、擦り傷等は湿潤療法施行中。

【保健部会】

日 時 毎週月曜日 (13 時 30 分～14 時 15 分)

参加者 各担任、看護師、栄養士

※乳児・幼児部会の中で実施する。

目 的 主に、看護師と保育士の保健に関して。

各月の病欠・子どもの健康面・保健指導・保健連絡の場として活用できた。

引続き内容を検討し、充実させていきたい。

【保健指導について】

◎園児対応

指導として、歯磨き・風邪予防（手洗い、うがい）・咀嚼について行った。

歯磨きに関しては、春・秋の定期歯科健診の結果から、口腔内清掃状態の不良の子どもの増加を止めるための取組みとして 1 歳児からの歯磨き実施、繰り返し定期的な指導に加えて、幼児クラスでは食後に 3 クラス合同の「1 分歯磨き」を担当中心に行なった。

いずれの指導に関しても、紙芝居や歯の模型を使用し子どもに分かりやすく興味を引く内容を心がけ、担任と共に指導していった。

◎職員対応

【症状の対応・事故防止のための取組み】でも挙げたように、年間の保健部会時に登園許可書・登園届について、外傷・打撲、痙攣時の対応・誤飲時・口腔内の怪我・骨折・火傷の対応について、知識の確認を行った。

また、各病気に関して、ヘルニア・いちご状血管腫・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎・喘息・斜視・RSウイルス感染症・その時々のある子どもに起こった病気に関しての知識をその月内で行えるように継続していきたい。

【身体測定の結果について】

保護者に個人表でお知らせし、年度末には年間差を報告した。

給食室事業報告

栄養士：岩崎、渡辺、中島千宝、中島千尋

1. さかえ保育園給食室の方針と事業計画を立てる。

《給食室としての方針》

しっかり食べる子どもを育てるということを基本に、食べ物に関心の持てる子どもに育てる。給食室としては、食べ物に関心を持てる子どもに育てるために『食を営む力の基礎』を培っていききたい。食べ物に関心のもてる子どもに育てるために、より良い食事提供に努める。

(考え方)

『食べ物に関心の持てる子ども』に育てるためには、食育を進めていく必要がある。

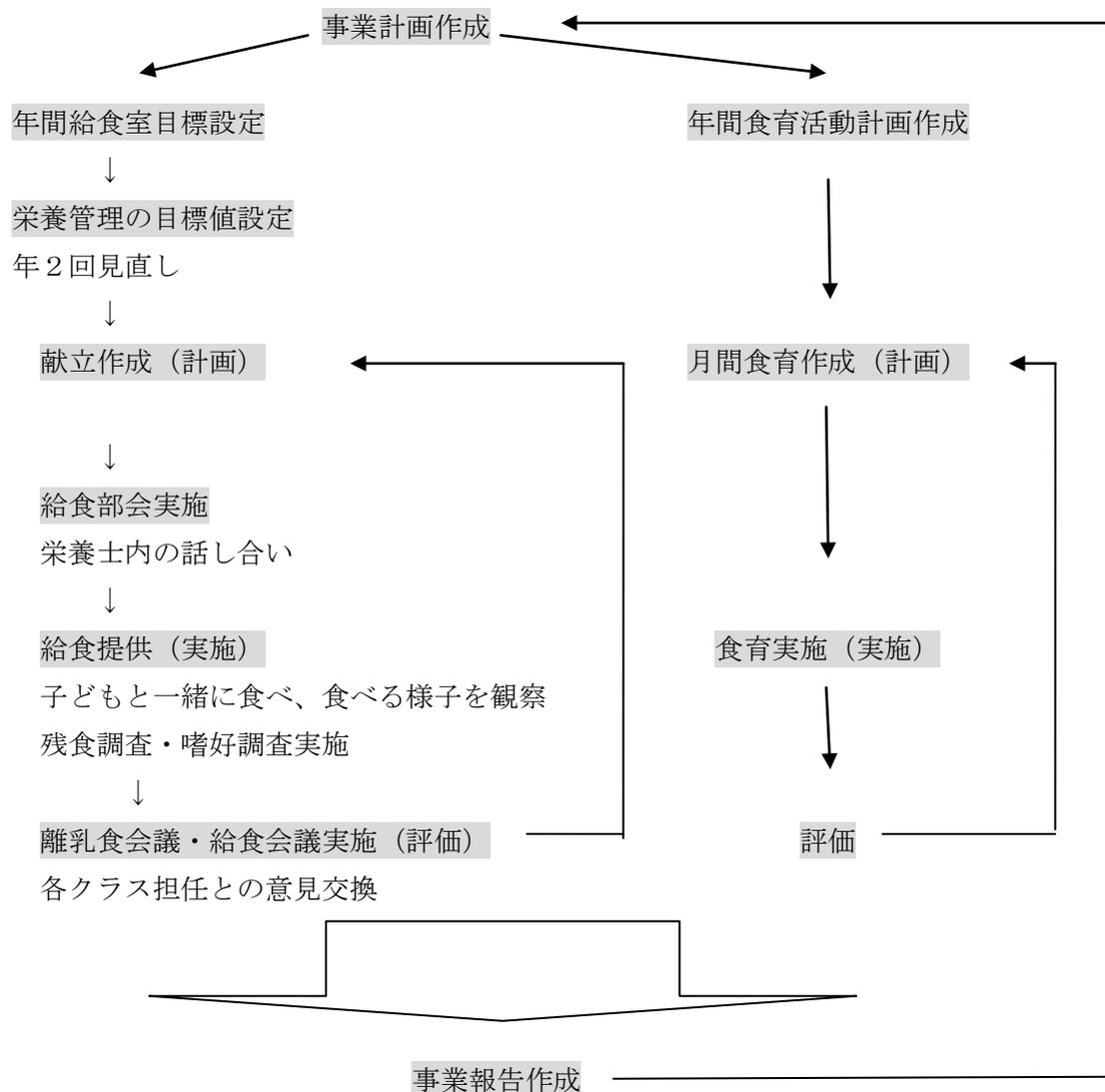
食育は概略図を基に進めていき、食を営む力を付けていく。

食を営む力とは 料理をする力 味がわかる力 食べ物の育ちがわかる力 食べ物を選ぶ力 元気な体がわかる力 行事を知る力と考える。その力をつけるために年齢別に年間食育活動を立て、調理保育や栄養教育などを進めていく。その他にも、保育士と密に連携して、保育年間カリキュラムや月間指導計画の食育内容を立てる。また、給食年間計画を立て、それを考慮した献立作成をし、より良い食事提供を行っていく。

(平成22年3月 厚生労働省 児童福祉施設における食事提供ガイド参考)

《具体的な事業計画》

●より良い食事提供の進め方(概略図)●



(その他)

- ・ 幼児部会 乳児部会における保育士、看護師との定期的な意見交換を実施
- ・ 試作会の実施
- ・ 食事アンケートを実施し家庭状況を把握し、献立に反映させる

●食べ物に関心の持てる子に育てるために●

料理をする力・・・調理保育、栄養指導、マナー指導など

味がわかる力・・・甘い、しょっぱい、すっぱい、苦い、おいしい(基本味)、
匂い(食材の匂い、焼いた匂い、揚げた匂い)など

食べ物の育ちがわかる力・・・畑での野菜栽培、魚さばき、食材紹介、
毎日の給食など

(食べ物や作ってくれた人への感謝の気持ち)

食べ物を選ぶ力・・・食材の原形・感触、匂いの食材、目で見えて食べたい食事、
彩り、食事形状、スタイルなど

(幼児室に子ども用ひらがなの献立表を掲示)

元気な体がわかる力・・・三色群の食材の働き、バランスガイド、栄養指導

行事を知る力・・・行事食、行事の話

概略図に沿い、計画通りに進めることができた。
来年度は5つの子どもの姿の目標を立て、それを達成するべく食育を進めていきたい。
お箸練習に関して、現在の開始時期だと間違った持ち方の癖がついてしまっている子もいることから、来年度は園での練習開始時期を早めることを計画したい。

2、栄養給与目標(昼食・おやつでとりたい栄養量の目安)

	エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	鉄分 (mg)	V,A (μ g)	V,B1 (mg)	V,B2 (mg)	V,C (mg)	食物繊維 (g)	塩分 (g)
3才未満児	475	18	15	220	2.1	190	0.25	0.27	20	3.8	2.0

3才 以上 児	560	21	18	250	2.2	200	0.32	0.36	20	4.5	2.2
---------------	-----	----	----	-----	-----	-----	------	------	----	-----	-----

(平成26年度10月目標量)

ほぼ計画通り行えた。食品構成(実施)では穀物エネルギー比が目標値より低く、動物性たんぱく質比が目標値より高くなった。食品構成作成根拠を見直し、目標値の範囲内に収まるよう行っていきたい。

3、食育について

○給食年間目標○

	目標	給食室配慮
4・5月	楽しい雰囲気の中でみんなと一緒に園の食事に慣れる	切り方や味付けを工夫し食べやすい、食べ慣れている献立を中心に進める
6月	マナーに気をつけ、よく噛んで食べる	梅雨の時期に配慮した献立にする。また、食後の歯磨きの大切さやよく噛んで食べることで虫歯予防になる事も伝える。食育月間の為、食事マナー指導を行い正しいマナーを伝えていく。
7・8・9月	暑さに負けずにしっかり食べる	さっぱりした献立や夏や残暑の疲れを回復させる食材を多く取り入れ、食欲が湧くようにする。食事のマナー指導を行い、正しいマナーを伝えていく。(9月)
10・11月	バランス良く食べ、丈夫な身体をつくる	秋の味覚を取り入れて食品や料理の幅を広げる。食欲を満たす献立や量を工夫する。
12月	食事することに喜びを感じ、意欲的に食べる	旺盛になった食欲を維持させるように食事量に気をつける
1・2月	寒さに負けずに楽しく食べる	体が温まる食材を取り入れ、温かい給食提供に努める。食事のマナー指導を行い、正しいマナーを伝えていく。(1月)
3月	みんなと一緒に楽しく食べる	春らしさを感じる料理を取り入れる

給食年間目標と年間食育活動を基本に、給食会議、離乳食会議、幼児部会、乳児部会等を利用して各担任、看護師と連携をとり、その発達段階などを考慮して進めていく。食育は実施したものについては記録を残し、評価を行い、次回に活かしていく。更に、食育がただやるだけにならない様に、各担任と進め方やねらい等を話し合い、より子ども達の意識が高まる様に職員間の意識向上に努めていく。

計画通り行うことができた。

食育活動は栄養士が主となり進めている状況なので、より保育と関連して行われるよう連携を取り進めていきたい。

4、外部への情報提供計画

- ・保護者への園便り『給食より』 月間予定献立表を配布（1回／月）
- ・レシピ配布（1回／月）離乳食レシピ（4回／年）
- ・当日の給食の実物展示
- ・バランスガイドの表示
- ・園の食育の取り組みについて紹介
- ・当月の給食の栄養素量（エネルギー・蛋白質・脂質・食塩）等の掲示→献立表に記載
- ・ホームページでの公開
（当月の献立表・園便り『給食より』 調理保育実施予定表など）
- ・給食室前に保護者への情報提供の掲示（1回／月）
（季節の食材、行事、行事食について情報を掲示・配布）
- ・かつしか知っ得メモの掲示
- ・食育実施毎に、保護者へ向けて給食室前に食育内容を掲示。又、ツイッターにて食育実施の知らせや内容を発信。
- ・食材産地の掲示、ツイッターでの発信

計画通り行えた。レシピ配布では、保護者や園児からリクエストのあったメニューも取り入れた。次年度の食に関する情報を掲示・配布においては新たに郷土料理の情報を提供していくことを計画したい。

5、職員との連携計画

<保育士との連携>

- ・ 毎日の献立の嗜好調査の記入
- ・ 各子どもの成長・体調・食における家庭環境を随時確認
- ・ 給食会議、離乳食会議（各1回／月）

- ・ 乳児部会、幼児部会（各2回／月）
- ・ 食育の打ち合わせ随時

<看護師との連携>

- ・ 子どもの成長・体調を随時確認
- ・ 子どもの発育・発達の確認
- ・ 流行病を知る
- ・ 衛生管理情報の確認

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

6、アレルギー児への対応

- ・ 随時、保育士、看護師を交えて話し合いを行う
- ・ 4月、10月、計2回のアレルギー指示書の提出
- ・ 全体職員会議にて対象児童のアレルギー児食の確認を行い、保護者へは次月の給食内容(除去・代替食)を面談にて確認
- ・ 保護者へアレルギーで除去し、補えない栄養素などを栄養指導

計画通り行えた。

関連書類を看護師と見直し、来年度より「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」と「家庭における食物除去の程度」の書類を提出してもらう。

保護者との面談後、「アレルギー個別取り組みプラン」を作成する。

7、離乳食について

(別添えの離乳食のしおり参照)

- ・ 離乳食面談実施（保護者、栄養士、保育士）
- ・ 連絡帳や保護者、保育士からの子どもの家庭の食事確認
- ・ 子どもの食べる様子確認
- ・ 離乳食会議実施（栄養士、保育士、看護師）

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

離乳食のしおりを見直し、一部改訂をする。

また事業計画において、離乳食の目標ならびに内容を記載する。

8、衛生管理について

(別添えの給食室マニュアル参照)

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

9、給食室施設の設備について

(別添えの給食室施設の使用マニュアル設備参照)

計画通り行えた。引き続き行っていきたい。

10、災害時の給食について

(別添えの給食室災害時献立参照)

計画通り行えた。引き続き、最新の情報を取り入れながら確認していきたい。